2006・No.4　　2006年7月5日発行 (通巻158)

神経科学ニュース

Neuroscience News・Japan Neuroscience Society

〒113-0033　東京都文京区本郷7丁目2-2本郷ビル9F
日本神経科学学会
TEL: 03-3813-0272 FAX: 03-3813-0296
E-mail office@jnss.org
http://www.jnss.org

第29回日本神経科学大会 (Neuroscience 2006)

2006年7月19日（水）～21日（金）国立京都国際会館

第29回日本神経科学大会の開催が迫ってまいりました。事前登録をされた方には、大会参加証（ネームカード）、プログラム冊子、演題・抄録検索CD-ROMなどを郵送いたしましたので、すでにお手元に届いていることと存じます。事前参加登録をされなかった会員の皆様には、本神経科学ニュース（7月15日号）にCD-ROMを同封いたしました。以下に具体的な数字を挙げておりますが、日本神経科学学会の優れた運営と大会でのレベルの高い研究発表のために、大会での発表演題数と参加者数が年々増大しています。本大会では、多くの参加者やすべての会員の皆様がプログラム一覧、英文抄録などを含み、発表演題・抄録、発表者、発表時間と場所などについて検索することができる“演題検索システム”を大会ＨＰと学会のＨＰからご自分のパソコンにダウンロードして使っていただく試みをスタートしました。システムは去る5月31日からスタートし、若干の初期トラブルを除いて好評をいただいております。お届けしたCD-ROMはダウンロード版をCD-ROMにしたものです。本神経科学ニュースに「演題検索システムについて」という記事を掲載いたしましたので、利用方法の詳細はそちらをご参照下さい。また大会に関する詳しい情報は、大会ホームページ（http：//www.congre.co.jp/neuro2006/）でご覧になれます。

本大会では、広範な神経科学の分野の研究者が先端的で最新の研究成果を発表し、ディスカッションすることができる最高の機会を提供します。特別講演6題、受賞講演2題、シンポジウム・テクニカルセミナー・特別企画50企画251題、一般口演142題、ポスター発表1,091題、ランチョンセミナー12題、合計1,504演題と、2005年横浜大会を200演題以上上回る演題登録をいただき、こ

目　　次

第29回日本神経科学大会 (Neuroscience 2006)……1
演題検索システムについて……2
拡大執行委員会報告……4
U.S. Japan BRCP Workshop感想記……5
シンポジウム・研究会のお知らせ……7
研究助成……13
公募……14
その他……16
編集後記……16

れまでで最大規模の大会になります。学会会員の皆様を中心に幅広い分野の方々から本大会にお寄せいただいた熱い期待に心から感謝申し上げます。

今大会の懇親会（Meet the Lecturers and Colleagues）は、先端で活躍されている研究者、およびこれからそれぞれの分野で活躍しようとする若手研究者が集い、飲み物を片手に自由に交流できるsocialとして開催します。特別講演やシンポジウムの著名な研究者と会話をする良い機会でもあります。多くの皆様の参加をお待ちしています。

本大会への参加が、日本神経学会、日本精神神経学会および日本小児神経学会の認定医研修単位の対象となるための手続きを明確に、そして簡略化しました。学会の認定医をめざす若い医師の方々にとって、本大会は臨床あるいは基礎神経科学の最先端研究の講演を聴いたり、多くの研究者とコミュニケーションをはかる大変良い機会ですので、是非本大会へ参加くださるようご案内いたします。

大会運営に関するアンケート用紙を大会会場内に置きます。また、事前参加登録いただいた方々にはプログラム冊子、演題・抄録検索CD-ROMなどを郵送する際に同封いたしました。是非ご意見をお寄せくださいますようお願いいたします。大会事務局(ns2006@koto.kpu-m.ac.jp) までお知らせいただいても結構です。

第29回(2006)日本神経科学大会執行委員会
大会長　木村　實（京都府立医科大学）
実行委員長　中川正法（京都府立医科大学）
実行委員長　伏木信次（京都府立医科大学）
プログラム委員長　河田光博（京都府立医科大学）
実行委員　福山秀直（京都大学）

演題検索システムについて

このニュースレターがお手元に届く頃は学会まで残り1ヶ月を切り、学会員の皆様は参加準備に余念のないことと存じます。昨年に引き続き今大会でも演題抄録を検索可能な形で電子化いたしました。長年の実績を持つ米国神経科学学会のAbstract Viewer & Itinerary Plannerほどには充実していませんが、会員の皆様から寄せられたご意見を元に改良を重ねて参りました。特にスケジュール作成（マイスケジュール）では選択した演題が含まれるセッションを大会日程表の中でハイライト表示することでスケジュールが直感的にわかるように工夫いたしました。また、今大会ではCD-ROM版の演題検索システムと同じものを学会HP並びに大会HP*1からダウンロードできるようにいたしました。既にダウンロードされてお試しになっている会員の方も多数いらっしゃると思いますが、簡単に使用方法を説明いたします(説明はWINDOWS版についてですがMacintosh版も同様です)

〔使用方法〕

CD-ROMからインストーラを起動しソフトをインストールして下さい。インストールが終わりますとデスクトップにNeuro2006というアイコンとExport Data Neuro2006というショートカットが作成されます（図1)。このショートカットは演題検索システムの出力ファイル(演題検索結果)にアクセスするためのものです。

Neuro2006のアイコンをダブルクリックするとHOME画面（図2）が現れます。ボタンが上下に配置されており、上部には「特別講演」、「プレナリーレクチャー」や「一般口演」などの一覧を見ることができるボタン、下部には「検索」、「マイスケジュール」、「Help」等のボタンが配置されております。 演題を検索するには「検索」ボタンを押して検索ウインドウ(図3)を表示します。例えばStriatum という単語が演題のどこかに含まれている演題を検索する場合は最下段の入力ボックスに Striatum と入力し、「検索実行」ボタンを押すと検索結果が一覧として表示されます。検索結果の一覧で右端にあるSelect Presentationにチェックを入れることで演題を選択でき、「選択演題」ボタンを押すと選択された演題のみが一覧表示されます。「HTML書き出し」あるいは「エクセル書き出し」ボタンを押すと選択した演題がそれぞれの形式で書き出されます。書き出されたファイルは**Export Data Neuro2006**というフォルダにありますので前出のショートカットからアクセスできます。「マイスケジュール」ボタンを押すと大会日程表が表示され（図4)、選択した演題が含まれるセッションはハイライト表示されますのでスケジュールを把握しやすいのではないでしょうか。以上簡単に使用方法を説明いたしましたが、より詳しい内容についてはヘルプ画面から**PDF**版の操作マニュアルをご参照下さい。

限られた予算と時間の中で作成しておりますので、至らない点もあると思います。また、動作確認を行っておりますが見逃したバグなどもあると思います。演題検索システムをより良くしていくためにも忌憚のないご意見を事務局(ns2006@koto.kpu-m.ac.jp)までお寄せ下さるようお願いいたします。また、今回は大会の国際化に沿って演題検索システムも日本語環境、英語環境のどちらでもスムーズに使えるよう配慮いたしました。そのため、OSのバージョン*2によってはご不便をおかけすることになりますが、何卒ご容赦下さいますようお願い申し上げます。

当演題検索システムが会員の皆様の一助となれば幸いです。

第29回(2006) 日本神経科学大会 事務局
井之川 仁 (京都府立医科大学)

＊1 http://www.jnss.org/ ：学会員専用
http://www.congre.co.jp/neuro2006/abstract/ ：大会参加登録者用
＊2 演題検索システムはWindowsでは2000sp4以降、MacintoshではOSX10.3.9以降でご使用になれます。Windows98やOS9、OSX（上記バージョン以外）ではご使用になれません。

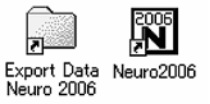


図1 ショートカット＆アイコン

図2 HOME 画面

図3 検索画面

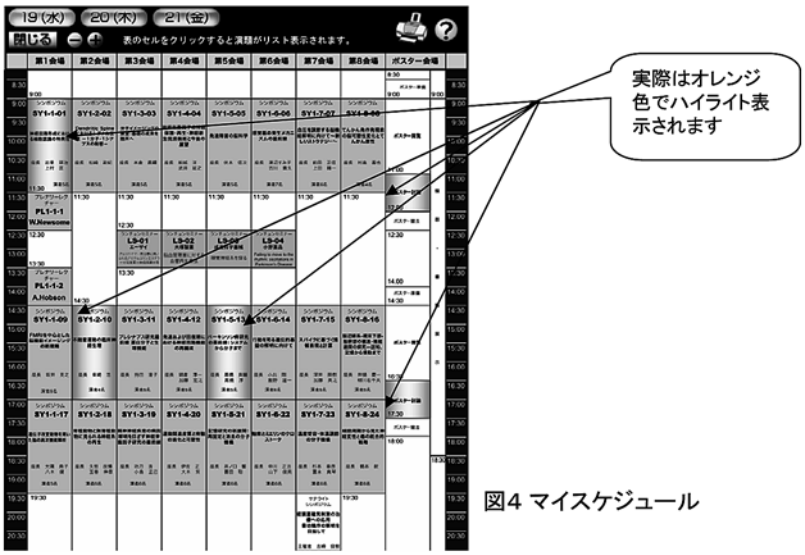


図4 マイスケジュール

拡大執行委員会報告

津本忠治　日本神経科学学会会長

去る5月14日に拡大執行委員会を開催しましたので、その様子をお知らせします。ただし、これは出席委員の承認を得た正式の報告書ではなく、その場の雰囲気を会員の皆様にお伝えする記事であるとお取り下さい。拡大執行委員会は執行委員に加えて、各種委員会の委員長を含めて日本神経科学学会が直面している種々の問題を検討し、理事会に解決策等を提案するという位置づけで開催しています。

日本神経科学学会拡大執行委員会
日時　2006年5月30日火曜日　17時から20時
場所　日本神経科学学会本郷事務室
出席　津本忠治会長、宮下保司庶務理事、森憲作会計理事、伊佐正動物実験・倫理委員会委員長、入来篤史対外広報小委員会委員長、大隅典子研究体制委員会委員長、岡本仁国際対応委員会委員長、金子武嗣将来計画委員長委員長、狩野方伸広報委員会委員長、木村實今期大会長、白尾智明ニュース編集小委員会委員長、田中啓治次期大会長、真鍋俊也電子化推進委員会委員長、柚崎通介ホームページ編集小委員会委員長

報告事項

1. 財務報告:森理事より、4月末日現在の会計報告があり、会員からの年会費の納入率は現時点では未だ高くはないが、全体的にみて順調であることが報告された。

2. 会員数の状況:宮下庶務理事より、会員構成等について報告があり、会員数をさらに増やす方策について意見交換を行った。

3. 会費の口座振替の状況:会員の年会費の口座引落し手続きの申請は、550件を超えている。今後も第2回目の会費請求書の発送時などを利用して、年会費の支払いを、口座引落しに移行させていく方針であることが、宮下庶務理事より報告された。

4．2006年(第29回)大会の経過報告:
1)日本精神神経学会が研修ポイント取得対象学会として、今回初めて指定されたが、今後の大会運営のために研修ポイント取得状況等の情報を集める必要性が指摘された。
2)Travel Awardsについて、今期は応募総数76名のうちから41名に受賞者が決定した旨木村大会長より報告があった。
3)英文抄録集に関するElsevierとの契約書案が津本会長に送られてきたが、昨年と同様、大会長とElsevierとの契約の形に変更することが了承された。また、会員と大会参加者が演題と抄録の検索システムをウェブサイトからダウンロードして利用することについてElsevierの了解を得ること、抄録集の印刷部数の検討などは大会長に一任とすることになった。
4)今年度大会に際して、事前登録のない会員にも大会プログラムのCDを配布するという案が了承された。
5) 今年度大会に際して、演題と抄録の検索システムを大会のサーバだけでなく、学会のホームページサーバに設置して会員がサイトからダウンロードして利用するという案が了承された。

5. 2007年 (30回) 大会の準備報告について、田中大会長より報告があった:日本神経化学会、日本神経回路学会との合同大会である。日程は平成19年(2007年)9月10日(月)～12日(水)で会場はパシフィコ横浜である。また、今後の主な予定について以下のような報告があった。
1) 9月1日にプログラム委員会を開催する。
2) 企画シンポジウムは9月中旬に決定予定。その後の予定は以下のとおり。公募シンポジウムは10月1日から公募し、12月31日に締め切る。一般演題は2月1日から募集し、3月31日に締め切る。特別講演は3題で、2題は神経科学学会が、1題は神経化学会が推薦して選ぶ準備をしている。託児所は、パシフィコ横浜内に置く。
3)参加費は据え置きとし、懇親会費は3000円の予定。
4) Travel Awardsについては、各学会の負担額について説明があった。日本神経科学学会に関する不足分は、日本神経科学学会の海外若手招聘基金積立より負担する案が津本会長より提案され、了承された。
5)総会は1日目の1時から2時に開催予定。
6)シンポジウムを従来より減らし、口演(オーラル)発表を増やすよう検討をしていることが田中大会長より報告されたが、シンポジウムを減らすことにより、参加者数が減少するおそれのあることが指摘された。

審議事項

1．Travel Awards 応募者の推薦者の問題:木村實大会長より、推薦者は日本神経科学学会会員以外に、所属の IBRO または FAONS 構成学会の会長とする、という今年の案では条件を満たしていない応募が多いという指摘がなされ、推薦者を所属機関の長にまで広げる案が検討され、了承された。

2．一般からの問い合わせに対する学会としての情報開示方針が討議された。日本神経科学学会会員、非会員であることを開示するかどうかについては、当面、開示しないこととした。

3．会費滞納の会員に対する対応が討議された。前年の支払いのない人は、会員推薦資格がないという案が検討され、理事会に提案する具体案を詰めることになった。

4．倫理に関する委員会を新設するかどうかという問題について:　従来の研究体制委員会を、研究倫理委員会に名称変更して、倫理問題を検討することになった。

5．賞委員会の設置について:各種の賞への候補者の推薦は、指名委員会にておこなう案が検討され、了承された。

6．男女共同参画推進委員会を常置委員会にする案が検討され、了承された。

7．ホームページの管理運用問題:

1)大会アンケート集計を、現在より効率的にする必要性が指摘された。

2)大会登録は、学会業者からは独立させて、学会独自のサイトを用意する方法が議論された。

3) Web 集計システムが完成し、オンラインアンケートや、各種投票システムへの積極的運用について提案がなされた。これに関連して、現在なお30%を占めるシステム未登録会員の扱いに関する審議の必要性が指摘された。

8．神経科学ニュースのありかた:

1)　神経科学ニュースのお知らせ(研究助成・公募などを含む)に関して:

原稿の長さを制限する案が提案された。また、掲載するには、掲載依頼者は、原則として本学会会員のみとして、団体からの場合は、協賛会員として会員登録してもらう案が検討された。その結果、提案に沿った運用を試験的に行うこととしたが、最終決定は、その運用状況をみて決めることとなった。

2) 助成財団の受賞者発表に対して、本学会との関係が深いものは、優先的に掲載する方針が検討され、了承された。

3) 大会事前登録のない会員に CD を配布するために、2006 年 7 月号は、発行日を、通常の 7 月 15 日から 7 月 5 日に前倒しにし、原稿の締め切りも 6 月 15 日にする案が了承された。

U.S. Japan BRCP Workshop感想記

多田智子
(博士研究員・Morgan SHENG研究室、マサチューセッツ工科大学)

U.S. Japan BRCP Workshop
Coordination of Structural and Functional Synaptic Plastisity
場所：Sheraton, Maui, Maui, Hawaii
日時：March 13-15, 2006

この学会の目的は“アメリカ合衆国と日本の神経科学研究における最新の知見を深め、共同研究の発足を促す”である。
こう書くと、なんだかとても高尚な学会のような気がするが、実際は参加者 30 名の「神経科学ご一行様 ハワイ・マウイ島３日間ツアー、南国の楽園広がるシェラトン・マウイに滞在、到着時に彩り鮮やかなウェルカムレイをプレゼントいたします。」といったところである（写真１）。ハワイ・マウイ島は、素朴な大自然とリゾートが共存する島で、常夏のビーチ、シュノーケリングとダイビング、最高の夕焼け、クジラウォッチング、トロピカルジャングル、ハレアカラ国立公園休火山山頂からの絶景、などなど、が楽しめる。もちろん、学会は朝のセッションは８時から、夜は１０時まで活発な議論が行われた（写真 2)、昼休みにはプールで、ビーチで、夜はホテルのジャクジーで、バーで、さらに打ち解けた交流が行われた(学会の内容は以下の website で閲覧できます http://www.medschool.northwestern.edu/penzes/Seminar)。

新しい物好きの私は、「実験方法の改良」の発表がとても好きである。重本隆一先生（岡崎生理研）は、凍結細胞膜割断面レプリカに残存するタンパク分子の分布を電子顕微鏡免疫染色法により観察する SDS-freeze fracture replica labeling 法により、シナプスに局在する AMPA レセプター

分子の数を発表していた。確認のために、ラットのPurkinje細胞において、１量子のグルタミン酸によって活性化するAMPAレセプターチャネルの数の平均を電気生理学的手法によって測定、算出したところ、ほぼシナプスに局在するAMPAレセプター分子の密度と一致するんだそうだ。岡部繁男先生（東京医科歯科大）は、１個のシナプスに存在する４種類の足場蛋白質PSD95、GKAP、Shank、Homerをそれぞれに融合させた蛍光タンパク質GFPの蛍光を測定することによって、数を算出していた（蛍光プラスチックビーズで蛍光強度のキャリブレーションがどうこう言っていたが、よく分からなかった）。数を数えるって、思いつきそうで思いつかないアイデアだなぁ、と感心してしまった。Prof. Scheiffele（コロンビア大）とDr. Paradis (ハーバード大学Prof. Greenbergの代理のポスドク)は若手研究者ながら、発表方法は学ぶことが多かった。表情が豊かで、ここぞという結果を強調し、効果的な身振り手振り、堂々とした丁寧な質問の受け答え、話す速さや立ち位置も練習しているんじゃないかと思ってしまう。

といっても、ここはハワイ。いつもは厳しく、近寄りがたい先生方ものんびり、ゆったり、うきうき、リゾートムードである。どれくらい楽しんでいるかというと、写真3のProf. Sheng (MIT) の比較を参考にしてもらいたい。PSDタンパク質解析のスターProf. Shengはボディーボードで波ともみくちゃになって遊んでいるし、長期増強・抑制現象の大御所Prof. Malenka (Stanford University) は、PSD-95そっちのけでホエールウォッチングに夢中、in vivo Retinal Axon Arborイメージングを発表したProf. Cline (Cold Spring Harbor Lab) は娘さんとジャグジーを楽しんでいるし、GluRδ2ノックアウトマウスの小脳解析の柚崎先生（慶応大学）はシュノーケリングが大お気に入りの様子であった。このようなこじんまりした学会では、話してみたかった憧れの先生は捕まえやすいし、質問があれば遠慮なく質問できるし、自分の研究を聞いてもらえてアドバイスしてもらえるし、新しい友人(研究仲間)もできるという利点がある。ハワイはさらに大歓迎！大満足のハワイ・マウイ島３日間ならぬU.S. Japan BRCP Workshopであった、欲を言えばもっと長くてもよかった。心から主催者のＰｒｏｆ．　Ｐｅｎｚｅｓ (Northwestern University) と岡部先生 (東京医科歯科大) に感謝したい。

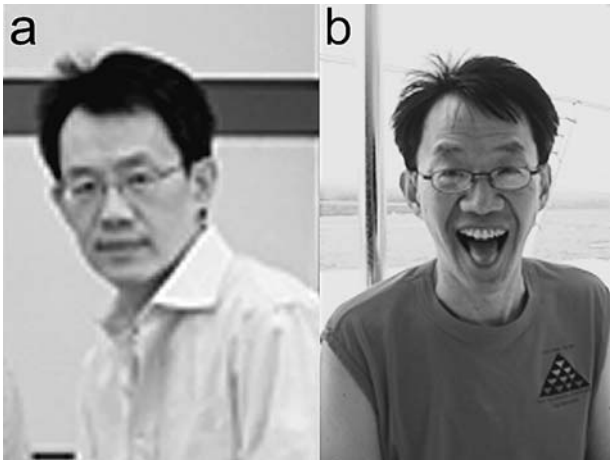
また行きたいなぁ、U.S. Japan BRCP Workshop。

2006年3月20日

写真1.
ホテル シェラトン・マウイのプールサイド

写真2．U.S. Japan BRCP Workshopの様子

写真3．普段(a)とBRCP Workshop中(b)のProf. Sheng (MIT)



INFORMATION

シンポジウム・研究会

第36回(2006) 新潟神経学夏期セミナー

～脳と心の基礎科学から臨床まで最前線の研究者、臨床家に触れて体感しよう～

期日:7月28日（金）～30日（日）
場所:新潟大学脳研究所　統合脳機能研究センター(6F)セミナーホール
主催:新潟大学脳研究所　新潟脳神経研究会

――― プログラム ―――
7月28日（金）体験実習コース
(1)基礎神経科学履修コース（50名） 10:30 ～ 17:00
（初代培養神経細胞を用いた実験と、遺伝子操作マウスの作製等を基礎から学べるコース）
(2)脳神経レジデント見学コース（10名） 10:00 ～ 19:00
(病理・3T-MRI・脳外科・神経内科を一日で概観できるコース)

29日（土）セミナー:脳を探る
10:00～11:00 「脳梗塞神経保護療法の現状と将来」下畑享良（新潟大・脳研・神経内科）
11:00～12:00 「MRIで見る脳皮質再構築」藤井幸彦（新潟大・脳研・脳外科）
13:00～14:00 「ポストゲノムな脳:神経細胞における翻訳調節機構」武井延之（新大･脳･分子生物）
14:00～15:30 「臨界期のしくみ」 ヘンシュ貴雄（理化学研究所・脳科学総合研究ｾﾝﾀｰ）
16:00～ポスター発表
17:30～　　懇親会

30日（日）セミナー:脳を守る・直す
9:30～10:15 「PETを用いた脳深部刺激療法の評価」 福多真史（新潟大･脳･脳外科）
10:15～11:00 「部分てんかんの起源を探る:MEGを用いた研究」大石　誠（新潟大･脳･脳外科）
11:00～12:30 「神経リハビリテーションの進歩」宮井一郎（森ノ宮病院･神経ﾘﾊﾋﾞﾘ研究部）

申込み:受講料を郵便振替（口座番号: 00520-1-45943, 加入者名:新潟脳神経研究会）でお送りください。通信欄に所属、連絡先、28日の希望コースをご記入下さい。
締め切り:当日まで受け付けますが、実習コースは定員になり次第締め切ります。
問い合わせ先:951-8585 新潟市旭町　新潟大学脳研究所　神経学夏期セミナー事務局・佐藤
TEL: 025-227-0606; FAX: 025-227-0814; E-mail: blib@bri.niigata-u.ac.jp
URL: http://brain.bri.niigata-u.ac.jp（脳研HP) イベント欄
受講料(懇親会費無料):学生・修士課程院生 1,500円；博士課程院生 3,000円;その他一般 5,000円
本セミナーは日本脳神経外科学会生涯教育クレジット、日本神経学会認定医更新取得単位の対象です。

生理学若手サマースクール 脳機能発達の生理学的理解をめざして

開催日時:
平成18年7月31日（月）～8月2日（水）
開催場所:
国立オリンピック記念青少年総合センター
参加費:
一般6000円 大学院生4000円 大学生 2000円
対象・定員:
大学院生・大学生・研究者（企業の方も含む）180名
ホームページ:http://www.tamagawa.ac.jp/sisetu/gakujutu/brain/ss06/index.htm

申し込み:ホームページから事前申し込みください（6月中旬開始予定）
運営委員長:高橋英彦（独立行政法人放射線医学総合研究所主任研究員）
主催:日本生理学会　後援:文部科学省特定領域研究「統合脳5領域」
事務局:玉川大学学術研究所脳科学研究施設
脳機能イメージング研究部門　松田　哲也
Tel & Fax 042-739-8458
E-mail:　tetsuya@lab.tamagawa.ac.jp

プログラム（敬称略）
7月31日（月）
「神経科学の基礎知識」
泰羅雅登
（日本大学大学院総合科学研究科・教授）
「高次視覚野系における臨界期」
杉田陽一
（産業技術総合研究所脳神経情報研究部門　部門長）
「ヒト脳機能の初期発達」
多賀厳太郎
（東京大学大学院教育学研究科　助教授）
懇親会・ポスター発表
8月1日（火）
「子どもの社会性の発達とその障害」
榊原洋一
（お茶の水女子大学子ども発達教育研究センター　教授）
「自閉症への挑戦:応用行動分析による早期発達支援」
中野良顯
（教育臨床研究機構・元上智大学教授）
「大脳視覚野の発達と可塑性」
津本忠治
（理化学研究所脳科学総合研究センター　ユニットリーダー）
8月2日（水）
「乳児音声知覚の発達」
馬塚れい子
（理化学研究所脳科学総合研究センター　チームリーダー）
「大脳皮質領野特異的発現遺伝子の解析」
山森哲雄
（基礎生物学研究所脳生物学研究部門　部門長）

第10回「活性アミンに関するワークショップ」のご案内

日時:平成18年8月25日（金）9:30～17:30
場所:東京工業大学すずかけ台キャンパス
すずかけホール
（横浜:東急田園都市線すずかけ台駅徒歩5分）
会費:5,000円（学生1,000円）
主催:「活性アミンに関するワークショップ」世話人会
協賛:社団法人日本薬理学会
特別講演:
1)「カテコールアミン研究の歴史と展望:Catecholamine Research: Historical Overview」
藤田保健衛生大学客員教授、名古屋大学名誉教授
永津 俊治　先生
2)「統合失調症のゲノム解析:モノアミン系を主たる候補遺伝子として（仮題)」
名古屋大学大学院医学系研究科精神医学分野教授
尾崎 紀夫　先生
3) "Neurodegeneration: CSF Markers, Neuronal Apoptosis & Neuroprotection"
Neuroendocrine Unit, Institut Alfred Fessard of Neurosciences
Prof. Hasan Parvez

一般発表（口演およびポスター）もあります
参加申し込み、お問い合わせ先
〒226-8501 横浜市緑区長津田町4259　B-7
東京工業大学大学院生命理工学研究科
第10回世話人代表:一瀬宏
e-mail: bioforum@bio.titech.ac.jp
詳細は下記URLをご参照下さい。
http://www.bh4.bio.titech.ac.jp/bioforum.htm

BrainIT 2006 へのお誘い

平成 18 年 9 月 27 日～29 日に、北九州学術研究都市（北九州市若松区ひびきの）において、九州工業大学の 21 世紀 COE プログラム「生物とロボットが織りなす脳情報工学の世界」が主催する、新しい学問分野「脳情報工学」に関する第 3 回国際会議、 Brain IT 2006 、を開催いたします。
この会議は同 21 世紀ＣＯＥプログラムが全面的に支援する国際会議ですので、論文投稿料および参加登録料は無料です．是非多くの方々にご参加いただきたいと存じます．

招待講演者と講演タイトル
Mitsuo Kawato (Advanced Telecommunications Research Institute International)
"Manipulative neuroscience based on brain network interface."

Rodney Douglas (University/ETH Zurich)
"Computations performed by collections of recurrently connected neurons, and their implementation in hybrid CMOS VLSI electronic systems."

Yoshihiko Nakamura (The University of Tokyo)
“ Toward Intuitive Communication using Bodies Between Human and Humanoid Robots"

Helge Ritter (Bielefeld University)
"Making Human-Computer Interfaces Brain-adequate"

Andreas G. Andreou (Johns Hopkins University)
"Silicon Brains in 3D SOI-CMOS Technology"

Asla Pitkanen (University of Kuopio)
"Molecular and cellular pathways mediating amygdala-hippocampal dialogue
during fear conditioning"

Ryouhei Kanzaki (The University of Tokyo)
“ How the microbrain generates adaptive behavior?"
- from gene and neurons to neural networks and behavior ?

BrainIT 2006 に関する詳しい情報については、下記のホームページをご覧下さい。

http://conf.lsse.kyutech.ac.jp/~brain-it/

BrainIT 2006 広報担当
九州工業大学大学院生命体工学研究科脳情報専攻

中川秀樹

日本情動研究会（第 1 回）設立記念講演会のお知らせ

“情動研究の未来”―「こころ」の科学的解明をめざして

［日時］平成 18 年 10 月 24 日（火）13:30～16:30（12:00 開場）
［場所］キャンパスプラザ京都　4 階第 3 講義室
〒 600-8216 京都市下京区西洞院通塩小路下ル（JR 京都駅ビル駐車場西側）
http://www.consorium.or.jp/campusplaza/
［参加費・申し込み］不要

［プログラム］　司会　船橋新太郎（京都大学大学院人間・環境研究科）
1.「情動研究の戦略」　小野武年（富山大学大学院医学系研究科）
2.「情動を支える呼吸リズム」　本間生夫（昭和大学医学部）
3.「表情認知と情動」　吉川左紀子（京都大学大学院教育学研究科）
4.「情と意が創る脳型コンピュータ」　辻野広司（ﾎﾝﾀﾞ・ﾘｻｰﾁ・ｲﾝｽﾃｨﾁｭｰﾄ・ｼﾞｬﾊﾟﾝ）

終了後　懇親会（会費5000円）
［主催］　日本情動研究会
代表世話人　小野武年（富山大学大学院医学系研究科）
［共催］CREST「情動発達とその障害発症機構の解明」
［事務局］　〒930-0194 富山市杉谷2630　富山大学大学院医学研究科行動科学教室内
Tel:076-434-7480　Fax:076-434-5180
e-mail: fukuda@las.u-toyama.ac.jp

第15回日本バイオイメージング学会学術集会

主催:日本バイオイメージング学会
協賛:日本神経科学学会ほか
会期:平成18年10月 31日（火）～ 11月2日（木）
会場:岩手医科大学付属循環器医療センター（〒020-8505 盛岡市中央通1-2-1）
大会長:佐藤　洋一
（岩手医科大学医学部解剖学第二教授）
副大会長:阿尻　雅文
（東北大学多元物質科学研究所教授）

プログラム
10月31日（火）13:00～17:00　参加無料
公開シンポジウム:わたしたちの生活に入ってきたバイオイメージングとナノ技術
11月1日（水）～ 2日（木）　正会員5,000円　学生会員3,000円　非会員7,000円
特別講演:　近未来的バイオイメージング技術の展望
一般講演・ポスター
シンポジウムI～IV
I　みちのくのバイオイメージング
II　Quantum Dotとバイオイメージング
III　脳・神経系のダイナミクス
IV　細胞骨格の動態
ワークショップ:バイオ分子のイメージング－分子のかたちの諸相

詳細は大会ホームページをご覧ください。
http://www.nih.go.jp/yoken/bioimaging/index-j.html

問い合わせ先
第15回日本バイオイメージング学会
事務局　齋野　朝幸
〒020-8505　岩手県盛岡市内丸19-1　岩手医科大学医学部解剖学第二講座
TEL 019-651-5111 (ext.3353)
FAX 019-651-5605 (direct)
E-mail :　tsaino@iwate-med.ac.jp

「膜透過ペプチド」国際ミニシンポジウム 膜透過ペプチド:化学、生物学と臨床応用

Membrane-permeable peptides: Chemistry, biology and therapeutic applications

近年、HIV-1 Tatペプチドをはじめとした膜透過性ペプチドベクターを用いた生理活性タンパク質や薬物の細胞内導入法が注目されています。本シンポジウムでは、このような高機能細胞膜透過ベクターの開発を念頭に、国内外の主要研究者を集め、特にベクターの化学的なデザインと細胞内移行能や移行機序との関係、さらにはこの方法論の医療や材料科学等への応用に関して討論することを目的としています。本シンポジウムは、11月5-8日に開催される第43回ペプチド討論会・第4回ペプチド工学国際会議のサテライトシンポジウムの第9回ペプチドフォーラムとして開催されます。

日程　2006年11月10日（金）-11日（土）
会場　京都大学薬学部記念講堂（京都市左京区吉田下阿達町）
主催　日本ペプチド学会
オーガナイザー　二木史朗（京大化研）、松崎勝巳（京大院薬）

招待講演者
Steven S. Dowdy、Jonathan Rothbard、Bernard Lebleu、Ulo Langel、Alan Prochiantz、Ernest Giralt、Michael Gait、Sung-Kee Chung、Ferenc Hudecz、原島秀吉、松井秀樹、太田成男、山本昌、丸山厚、森井孝、野口洋文、永井義隆、米谷芳枝、山田秀徳、森下真莉子、二木史朗、松崎勝巳
ポスター発表（20件程度を募集）
申込締切　9月1日（金）
事前参加申込締切　9月30日（土）
詳しくはhttp://www.scl.kyoto-u.ac.jp/~bfdc/cpp.html　をご覧下さい。
問合先
〒611-0011 宇治市五ヶ庄
京都大学化学研究所
二木史朗
電話　0774-38-3210 FAX　0774-32-3038
電子メール　futaki@scl.kyoto-u.ac.jp

第21回生体・生理工学シンポジウム講演募集

主催・企画:計測自動制御学会　システム・情報部門　生体・生理工学部会
協賛:映像情報メディア学会，応用物理学会，システム制御情報学会，情報処理学会，人工知能学会，精密工学会，電気学会，電子情報通信学会，日本医科器械学会，日本医療情報学会，日本生体医工学会，日本音響学会，日本機械学会，日本神経回路学会，日本神経科学学会，日本生体磁気学会，日本生物物理学会，日本生理学会，日本体育学会，日本体力医学会，日本人間工学会，日本リハビリテーション医学会，日本リハビリテーション工学協会，日本臨床神経生理学会，日本ロボット学会，バイオメカニズム学会，ライフサポート学会，Tokyo Chapter of IEEE Engineering in Medicine and Biology Society

期日:2006年11月17日(金)～19日(日)
会場:かごしま県民交流センター〔鹿児島市山下町14-50〕
http://www.kagoshima-pac.jp/inetapp/imain/inet/welcome
申込締切:2006年7月14日（金）必着
採択通知:2006年8月1日（火）（実行委員会で査読後、採択を決定いたします）
講演時間:オーガナイズドセッションは口頭発表とし、質疑応答を含め20～30分とします．一般セッションは、口頭発表もしくはポスター発表とし、口頭発表は15分くらいとします．なお、講演時間は演題数により変更する可能性があります．
講演原稿:A4判4ページ以内．書式は採択通知と共にお送りします．申込演題名、発表者の変更はできません．
原稿締切:2006年9月1日（金）必着
詳細についてはhttp://labmac.be.kagoshima-u.ac.jp/~2006bpes/ をご覧ください．
問合せ先:鹿児島大学工学部生体工学科　湯ノ口万友 /
電話＆FAX (099)285-8409,
E-mail:bpes2006@labmac.be.kagoshima-u.ac.jp
学会事務局:部門協議会担当 / 電話(03)3814-4121，E-mail :bumon@sice.or.jp

SICEシステム・情報部門学術講演会2006(SSI2006)講演募集

主催・企画:計測自動制御学会　システム・情報部門
協賛:映像情報メディア学会，応用物理学会，日本音響学会，可視化情報学会，日本機械学会，システム制御情報学会，情報処理学会，人工知能学会，精密工学会，電気学会，電子情報通信学会，日本ロボット学会，日本生体医工学会，日本応用数理学会，日本オペレーションズ・リサーチ学会，日本経営工学会，日本シミュレー ション学会，日本神経回路学会，日本神経科学学会，日本人間工学会，日本認知科

学会，日本知能情報ファジィ学会，バイオメカニズム学会，ヒューマンインタフェース学会,日本バイオインフォマティクス学会，IEEE SMC Society Japan Chapter, IEEE Reliability Society Japan Chapter，リスク研究ネットワーク，(依頼中を含む)
計測自動制御学会システム・情報部門では，本年度の部門学術講演会を筑波大学大塚地区にて開催いたします．システム・情報に関連するテーマについて，境界領域を含めた幅広い範囲で講演を募集いたします．多くの皆様のご参加をお待ちしております．またオーガナイズドセッション企画も歓迎いたします．
期日:2006 年 11 月 28 日(火)～30 日(木)
会場:筑波大学大塚地区 G 館〔東京都文京区大塚 3-29-1〕
http://www.tsukuba.ac.jp/navi/access.html#tokyo
申込締切:2006 年 8 月 25 日（金）必着（講演申込），2006 年 8 月 18 日（金）（オーガナイズドセッション申込）
講演原稿:A4 版 4 ページまたは 6 ページ
原稿締切:2006 年 10 月 13 日（金）必着
詳細については http://www.sice.or.jp/~mms/ssi06/ をご覧ください．
問合せ先:
武蔵工業大学工学部システム情報工学科
SICE SSI-2006 事務局（担当:禰覇陽子（森研究室秘書））
電話 03-5707-2160・ＦＡＸ 03-5707-2160，
E-mail : neha@si.musashi-tech.ac.jp
学会事務局:部門協議会担当 / 電話(03)3814-4121，E-mail : bumon@sice.or.jp

理化学研究所・脳科学総合研究センター チュートリアル・シリーズ
(BSI Tutorial Series 2006)

理化学研究所・脳科学総合研究センター（BSI）では、昨年に引き続き 2006 年度も脳科学チュートリアル・シリーズを開講いたします。
本チュートリアル・シリーズは、脳科学に関する概略的で幅広な導入的講義を BSI で研究する大学院生とポストドク研究者を対象として行っております。今回は BSI に所属していない大学、研究機関に所属する大学生、大学院生、研究者にも広く開放することになりました。

尚、プログラム、講義の抄録などの詳細はホームページ http://www.brain.riken.jp/tutorial.html に掲載されております。
皆様のご参加をお待ちしております。

RIKEN Brain Science Tutorial Series 2006 starts June 6th, 2006.
The intellectual stimulation experienced by people working at that frontier will be shared with you in RIKEN BSI ' s Tutorial Series; a series that will present general ideas that feed the most advanced activities in brain science. Graduate and undergraduate students and researchers from nearby universities are more than welcome.

The lectures will be in English. Lecture schedule and program are available at our website:http://www.brain.riken.jp/tutorial.html
We look forward to seeing you at our Tutorial Series.

研究助成

2007年度ヒューマン・フロンティア・サイエンス・プログラム(HFSP)

長期フェローシップ及び学際的フェローシップ募集について

ヒューマン・フロンティア・サイエンス・プログラム(HFSP)は、1987年のヴェネチア・サミットにおいて日本政府より提唱した国際プロジェクトで、学際性、国際性、若手重視の基本理念の下、生体の持つ優れた機能解明に寄与する基礎研究を助成しています。本プログラムは、日本、アメリカ、イギリス、フランス、ドイツ、イタリア、スイス、カナダ、韓国、オーストラリア、EUの全11カ国・地域の運営支援国により運営されています。日本国内では、文部科学省、経済産業省が本プログラムに対して財政的支援を行っています。

国際HFSP推進機構(HFSPO)では、以下の(1)～(4)の事業を行っております。
(1)国際共同研究チームへの研究費の助成制度である「研究グラント事業」
(2)国外で研究を行うための旅費及び滞在費の助成制度である「フェローシップ事業」
(3)フェローシップ終了後の帰国後の支援制度である「キャリア・デベロップメント・アウォード事業」
(4)HFSP受賞者の国際的な研究集会である「受賞者会合」

このたび、(2)の「フェローシップ事業」におきまして、2007年度HFSP長期フェローシップ及び学際的フェローシップの募集を開始することになりましたのでお知らせいたします。詳細につきましては以下をご覧下さい。

長期フェローシップ

博士号取得後3年以内の生命科学分野の研究者が国外で研究を行うための助成制度です。助成期間は3年間で、年間574万円の生活費、年間98万2千円の研究費と旅費、及び15万9千円の語学研修費(初年度のみ)等が支給されます(家族手当・育児休暇に伴う手当あり)。長期フェローシップでは新しい分野に研究の方向を転換することが重視されています。2006年度は83名採択(応募者629名)(うち日本人14名採択(応募者98名))されました。

学際的フェローシップ

生命科学分野以外(物理学、化学、数学、工学、コンピューター科学等)の研究者が、国外で生命科学分野の研究を行うことを支援する助成制度です。専門分野の大きな方向転換を図り、新しい研究分野に進出することが期待されています。応募条件は長期フェローシップと同じです。2006年度は10名採択(応募者55名)(うち日本人採択なし(応募者1名))されました。

短期フェローシップ

学際的な研究など新たな研究分野について研究する機会を支援する短期間のフェローシップで、2週間～3ヵ月の旅費及び滞在費を助成しています。申請は随時受け付けています。

長期及び学際的フェローシップ受賞研究例

・小脳神経回路の機能
・長期記憶形成の分子機構
・ネズミにおける味覚地図の視覚化
・ミトコンドリア・リボソームの結晶構造解析
・シグナリング経路進化のメカニズム解読
・アクチンフィラメント核形成の構造的基礎
・RNAポリメラーゼII開始複合体の構造決定
・ショウジョウバエRNAi複合体形成過程の生化学的解析
・活性クロマチンにおけるヒストン修飾パターンの影響調査
・タンパク質間相互作用における特異性のコンピューターデザイン
・ジスルフィド結合の存在下及び非存在下におけるタンパク質ダイナミクスの直接観察等

応募方法(申請は英語でオンラインのみ)

国際HFSP推進機構(HFSPO)ホームページ及び日本語版ホームページに掲載されているガイドライン(募集要項)に従い、HFSPOホーム

ページからプレ登録を行います。その際に得られたパスワードを使ってオンライン申請書を入手し、直接オンライン申請します。応募に関してのお問い合わせは、直接、HFSPOまでお願いいたします。

締め切り　※ウェブサイトでの申請は7月初旬より開始予定
プレ登録(パスワード取得)
締め切り:2006年8月24日
申請締め切り:2006年8月31日

お問い合わせ先　(英語のみ)
Tel: +33-3-88-21-51-27
Fax: +33-3-88-32-88-97
E-mail:fellow@hfsp.org
国際HFSP推進機構ホームページ　http://www.hfsp.org/(フランス・ストラスブール市)
HFSP日本語版ホームページ　http://jhfsp.jsf.or.jp/
; HFSP日本語版ホームページの事業概要には、「よくある質問(FAQ)」としてQ&A形式のコーナーがございますのでこちらもご覧ください。

Ⅰ．東レ科学技術賞

1．候補者の対象: 貴学協会が関与する分野で、下記のいずれかに該当するもの
(1)学術上の業績が顕著なもの
(2)学術上重要な発見をしたもの
(3)重要な発明をして、その効果が大きいもの
(4) 技術上重要な問題を解決して、技術の進歩に大きく貢献したもの
2．科学技術賞: 2件前後。1件につき、賞状、金メダルおよび賞金500万円
3．候補者推薦件数: 1学協会から2件以内
4．推薦締切期日: 平成18年10月10日(火)弊会必着
5. 日本神経科学学会の推薦を希望される方は規定の用紙に必要事項を記入し、平成18年9月10日までに事務局(〒113-0033　東京都文京区本郷7丁目2-2本郷ビル9F　日本神経科学学会　山根　慶子)にお送り下さい。

Ⅱ．東レ科学技術研究助成

1．候補者の対象: 貴学協会が関与する分野で国内の研究機関において自らのアイディアで萌芽的研究に従事しており、今後の研究の成果が科学技術の進歩、発展に貢献するところが大きいと考えられる若手研究者(原則として推薦時45才以下)
2．研究助成金: 総額1億3千万円。1件3千万円程度まで 10件程度。
3．候補者推薦件数: 1学協会から2件以内
4．推薦締切期日: 平成18年10月10日(火)弊会必着
5. 日本神経科学学会の推薦を希望される方は規定の用紙に必要事項を記入し、平成18年9月10日までに事務局(〒113-0033　東京都文京区本郷7丁目2-2本郷ビル9F　日本神経科学学会　山根　慶子)にお送り下さい。

＊ 各推薦書用紙は、ホームページからもダウンロードできます。
URL：http://www.toray.co.jp/tsf/index.html

公　　募

兵庫県立大学で教授1名（生体情報学Ⅰ分野）の公募

専門分野は神経科学です。応募資格は神経ネットワークの研究を分子、細胞レベルで意欲的に進めておられる方です。大学院の「分子細胞情報学」と学部の「生体情報学Ⅰ」、「生物物理学演習」の講義、および研究指導を担当していただきます。現在、同分野には日下部岳広助教授と中川将司助手が在職しています。着任時期は平成19年4月1日（予定）です。

応募書類は、1）履歴書、2）研究業績リスト（査読誌、総説、著書、プロシーディングス、その他に分類すること）、3）主要論文別刷またはコピー（10 編以内）、4）これまでの研究の概要（2000 字程度）、5）今後の研究と教育に対する抱負（2000 字程度）、6）科研費などの、競争的研究費の取得状況（代表、分担を明記のこと）、7)本人についての意見を述べられる方（2 名）の氏名と連絡先。推薦書の添付は任意。

応募締切:平成 18 年 9 月 22 日（金）必着。
書類送付先:
〒 678-1297
兵庫県赤穂郡上郡町光都 3 丁目 2 番 1 号
兵庫県立大学大学院生命理学研究科長
小出武比古
事務部総務課気付　TEL:0791-58-0101
封筒に「生体情報学Ⅰ分野（神経）教授応募書類在中」と朱書し、簡易書留で郵送してください。原則として応募書類は返却いたしません。なお本研究科では、平行して生体情報学Ⅱ分野（細胞シグナル）の公募も行っていますので、お間違えのないようにご注意ください。

問い合わせ先
兵庫県立大学大学院生命理学研究科
渡辺憲二
TEL:0791-58-0186（直通）
E-mail: kirowato@sci.u-hyogo.ac.jp
なお、本研究科は「21 世紀ＣＯＥプログラム（生命科学）」の拠点に選定されています。
本研究科のホームページのＵＲＬは、http://www.sci.u-hyogo.ac.jp です。

慶應義塾大学医学研究大学院生募集および説明会のご案内

【修士課程】募集人数：20 名
募集日程：2006 年 8 月 21 日(月)～28 日(月)
【博士課程】募集人数：68 名
募集日程：
【前期募集】2006 年 8 月 14 日(月)～21 日(月)
【後期募集】2006 年 12 月 11 日(月)～18 日(月)

詳細は下記のホームページ・募集要項でご確認下さい。
http://www.admissions.keio.ac.jp/

・博士課程では昼夜開講制を実施－ジョブプランにあわせて単位を取得することが可能です。
・本研究科では文部科学省 21 世紀 COE プログラムにおいて、2 件採択されました。
「低侵襲・新治療開発による個別化癌医療確立」
「幹細胞医学と免疫学の基礎・臨床一体型拠点－ヒト細胞と in vivo 実験医学を基盤とした新しい展開－」
・COE RA(リサーチアシスタント)制度、各種奨学金制度の整備により大学院生の経済的支援体制充実
・COE 特別講義の開講など、最先端の教育プログラムを実施

大学院説明会の開催
【信濃町キャンパス】
日時：2006 年 7 月 27 日(木)
午後 5:30 ～ 7:00
場所：信濃町キャンパス(医学部)
総合医科学研究棟 1 階ラウンジ

【矢上キャンパス】
日時：2006 年 7 月 26 日(水)
午後 3:30 ～ 4:30
場所：矢上キャンパス創想館
14 棟ディスカッションルーム 7(217)

事前申込不要、参加費無料

問合先
〒 160 － 8582 新宿区信濃町 35
慶應義塾大学信濃町キャンパス学事課
03 － 5363 － 3662

その他

神経科学ニュースへの原稿を募集しています

求人情報、学会・シンポジウムの案内、助成金の案内のほかにも、学会への提言、研究雑感、学会見聞録、書評等神経科学の発展につながるものであればどのようなものでも結構ですので以下の要領でお送りください。

1. 原稿は電子版のみを受け付けています。原稿は電子メール添付ファイルでお送り下さい。

a. 受付可能なファイル形式はWord、EG Word (11以前)、KacisWriterです。それ以外にも或る程度対応可能ですが、事前にご相談ください。また作成に用いたアプリケーションに関わらずHTML, rtfファイルは受付可能です。テキストファイルも可ですが、その場合メール本文に埋め込んでください。

b.画像ファイルはPICT、JPEGまたはTIFFファイルで、可能な限り圧縮して本文とは別のファイルでお送りください。

c. 求人情報、学会・シンポジウムの案内、助成金の案内に関しましては、A4サイズ2段組で刷り上がりは、画像ファイルや、表などを含めて1/2ページ以内を単位として作製してください。なお、フォントは原則として、タイトルには14ポイント30文字以内、本文には10ポイント850文字以内を、目安にしてください。 その際、画像ファイルや、表等を、掲載ご希望の場合は、その大きさを差し引いてください。

2. 著者校正は行いません(お送りいただいたファイルをそのまま利用します）ので、誤りの無いことをお確かめの上、原稿をお送り下さい。

3. ニュースへの掲載は1回のみとさせていただきます。

4. 求人情報、学会・シンポジウムの案内、助成金の案内などは特に御希望のない限り、神経科学会のホームページにも掲載します。記事の長さに制限はありませんが、可能な限り簡潔におまとめ下さい。長すぎる原稿は一部割愛させていただく場合があります。

5. 他のサイトへのリンクは原則としておこなっておりませんのでご了承ください。

6. 締切は通例偶数月の月末25日ですが、都合により変動することがあります。

7. 掲載料は不要ですが、学会員であることが必要です。

8. 原稿の送付の宛先は以下の通りです。
news@jnss.org (担当　白尾智明）宛お送りください。

※　4～5ページに掲載している拡大執行委員会報告にありますように、神経科学ニュースは、原稿の長さを制限し、掲載依頼者は、原則として本学会会員のみという方向で運用を試験的に行い、最終決定はその運用状況をみて決めることとなりました。そのことにより、今回より、掲載の規定等に一部変更がありますので、ご了解ください。

編集後記

本号は神経科学学会大会との関係があり、通常よりも10日間早く発行することになりました。そのため、実際に原稿を編集する時期に、またまた私自身はアメリカ出張中になってしまいました。まずは、事務局の山根さんに多大な負担をかけることになってしまったことをお詫びするとともに、無事本号が発行できたことに感謝したいと思います。実は、6月17日から23日にかけてニューハンプシャー州で行われたゴードンリサーチカンファランス(GRC)に参加していました。GRCは一流の研究者が若い研究者と触れ合うところに意味があるように思います。編者もちょっと前までは、アメリカの大御所からいろいろ情報を聞き取ろうとしてがんばっていたものですが、最近はわざわざ日本から参加して米国の若者の教育に励んでも仕方ないなあと感じてしまう年頃になってしまいました。GRCに比べると三月に行われた日米脳科学情報交換セミナーはおもに米国の一流のラボのトップが集まっており、また若手研究者も参加していましたが、そのほとんどはすでに確立した自分の領域を持っている第一線の研究者でした。本号にMITの多田博士の手によるハワイでの日米脳科学情報交換セミナーに関する感想記が載っています。ざっと読むと、楽しいだけの

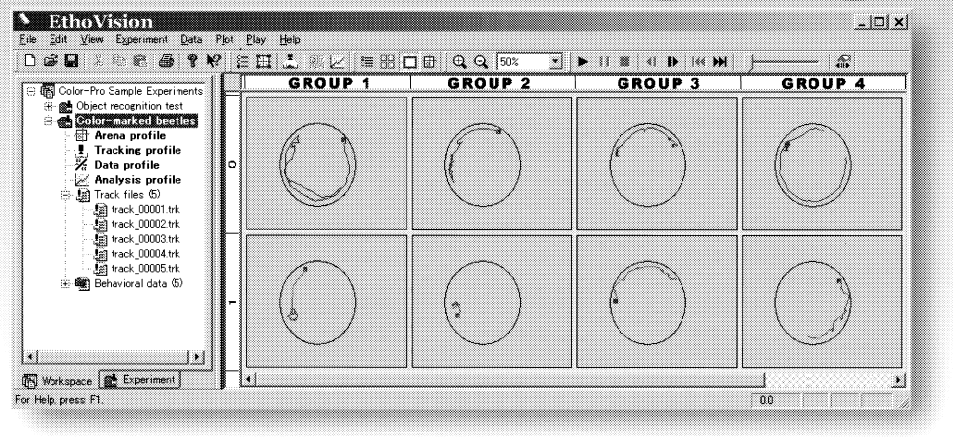
セミナーだったような印象も免れませんが、科学的な水準が高かったことだけでなく、今後の脳科学の方向性等を米国の脳科学研究のリーダーたちとひざを交えて話ができたことは大きな収穫であったと思います。また米国側からはこのような会合を定期的に持つ必要性がマレンカ博士やジフ博士などから強く提案されました。日米脳科学事業は日米両政府の協力により行われている事業ですが、今後とも日本政府の強いサポートを期待したいと思います。(白尾記)

発行：広報委員会
狩野方伸（委員長）
白尾智明（ニュース編集小委員会委員長）
真鍋俊也（電子化推進委員会委員長）
柚崎通介（ホームページ担当小委員会委員長）

ノルダス

自動行動追跡・解析用ビデオ・トラッキング・システム

エソビジョン3.0



エソビジョンはこんな装置です

◇例えば16個並べたケージにそれぞれ2匹ずつのラットを入れ、その32匹のすべてを追跡したい…。
エソビジョンはこんな実験にパーフェクトに対応するビデオ・トラッキング・システムです。各個体の移動距離・速度、軌跡の形状、特定エリアでの滞在頻度・時間、レイテンシーなどの解析はもちろん、ソーシャル・インタラクションとして接近、回避、各個体間距離まで解析します。特に「数をこなさねばならない実験ルーティン」を力強くサポート。煩雑な作業はすべて自動化できます（上記はすべてエソビジョン・プロの仕様です）。

◇ケージはもちろん、プラスメイズ、ラジアルメイズ、ウォーターメイズ、オープンフィールド等すべての実験系に1台で完全対応します。主要な実験系には、サンプル・プロトコルを標準装備。ビギナーの方でもすぐにルーティンで使いこなせます。

さらに、格段に進歩した「バージョン3.0」では…

MPEG をはじめとするメディアファイルを映像ソースとして利用可能。これには実に多くのメリットがあります。

例えばDVDには最長で5時間もの映像を保存することができます。しかも映像のアクセスはほとんど瞬時。従来のテープ類に較べ、使い勝手・保存性で圧倒的に優れています。

メディアファイルを使用すれば、「早送りデータ取得」が可能になります。しかもテープのように時間情報が失われることはありません。パワフルなPCを使用すれば、例えば連続24時間分のデータを数時間で取得完了。

＊1. エソビジョンの完全な機能実現にはUSBキーが必要ですが、これがなくても「データ取得」以外のすべての機能を使用することができます。

さらにあります。従来、必須だったA/D変換ボードが不要です。これは、ノートパソコンでもデータの取得が可能、という画期的な事実を示します。

ノートが使える。しかもエソビジョン自体にコピー制限はありません*1。そしてエソビジョンは、1つの実験プロジェクトの内容をたった一つのファイルに格納することができます。これを例えばネットワーク上に置けば、メイン・システムの所在に拘束されることなくどこでもデータの取得・解析が可能と言うことです。さらに複数のPCで解析を分担、などの離れ業も。

1台で、複数台の活躍。エソビジョンは、次世代の実験形態を先取りします

まだまだあります。従来からご要望の高かった、TTLパルス・ジェネレート機能を追加。例えばラットが特定エリアに入ったとき、フィーダを起動させるためのトリガパルスを出力できます。

従来はどうしても観察者の手を借りねばならなかった強制水泳実験。しかしエソビジョン3.0は独自のアルゴリズムを採用し、ラットのボディサーフェスの変化から「静・動」を自動判別し、カウントします。

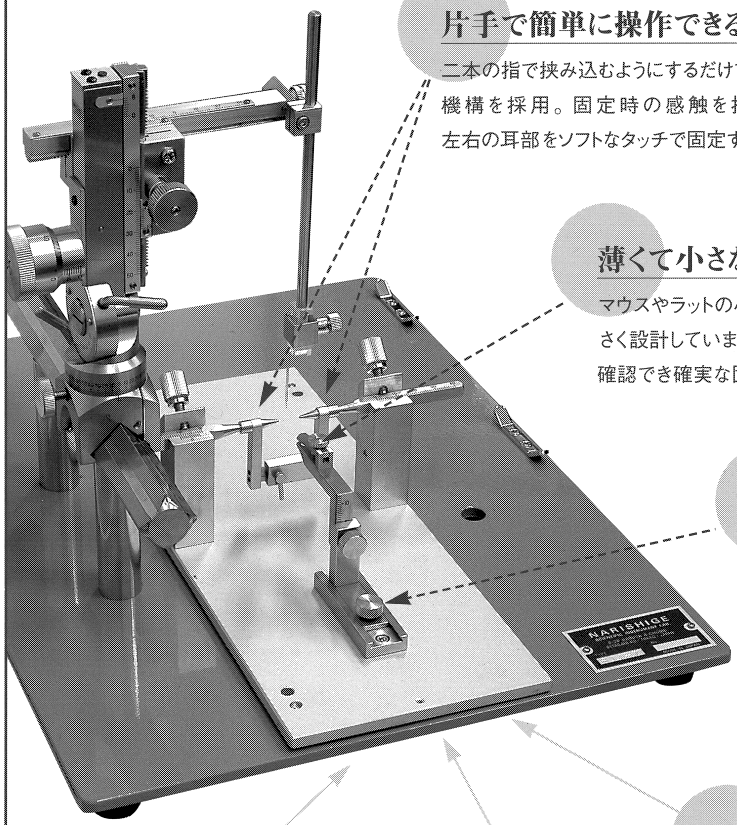
詳しい資料のご請求・デモンストレーション等をご相談ください。

ノルダス社日本総代理店
ショーシンEM株式会社
〒444-0241 愛知県岡崎市赤渋町蔵西 1−14
TEL：0564−54−1231　FAX：0564−54−3207
www.shoshinEM.com　info@shoshinEM.com

NARISHIGE JAPAN NARISHIGE

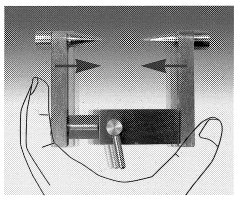
Electro-physiology

簡単に。確実に。ソフトに。
NARISHIGEの固定装置へのこだわり



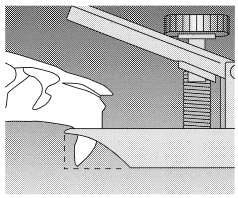
片手で簡単に操作できる補助イヤバー

二本の指で挟み込むようにするだけで滑らかに動作するアリ機構を採用。固定時の感触を指先で確かめながら、左右の耳部をソフトなタッチで固定することができます。



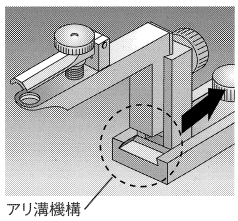
薄くて小さな口金具

マウスやラットの小さな口部に合わせて口金部を薄く、小さく設計しています。歯が固定されている様子が容易に確認でき確実な固定をサポートします。



滑らかに動作する位置調整機能

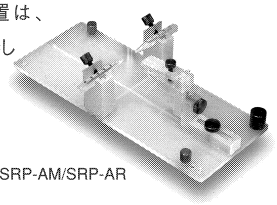
口鼻金具の位置調整はアリ溝機構を採用し、きわめて滑らかに動作します。口鼻金具を引っ張る時の微細な感触が手に伝わってくるので、誤って歯を折ってしまったり、外れてしまう心配が少なくなります。



アリ溝機構

MRIに対応した頭部固定装置

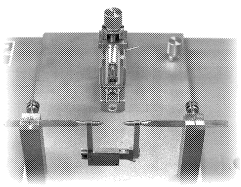
100%プラスティックの頭部固定装置は、ナリシゲのSRシリーズと高い互換性を維持しました。脳定位固定に加え、これからMRI測定も行いたいという方に最適です。



SRP-AM/SRP-AR

新生ラットからマウスまでの微細調整機構

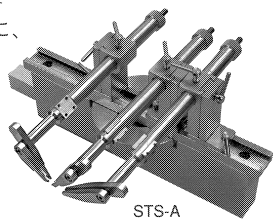
従来固定が難しかった新生ラットを安全に固定する、細部の微細な調整機構を装備した頭部固定装置を開発しました。SRシリーズとの高い互換性を維持しています。



SRS-A

デリケートな脊髄をソフトにクランプ

壊れやすく脆い脊髄を安全にクランプするために、手の力加減で微細な調整が可能。ソフトなクランプはマウスやラット新生児にも有効です。



STS-A

詳しくは当社担当までお問い合せください。

インターネットホームページなら、他の各種製品の詳細も手にとるように判ります。 http://www.narishige.co.jp

株式会社成茂科学器械研究所

〒157-0062 東京都世田谷区南烏山4丁目27番9号 TEL.03 -3308-8233 FAX.03-3308-2005 e-mail: sales@narishige.co.jp